

きずなの郷

第14号
2004 秋

発行 社会福祉法人 厚生協会

平成16年10月10日

ふれあい盆踊り

7月24日(土)、「第22回ふれあい盆踊り」がいこいの広場で行われました。この日は天候にも恵まれ、夜でも暖かく浴衣を着た大勢の利用者と町民の方々が集まり盛大に行われました。町内の各団体の協力を頂き、焼きそば、イモ団子、おでんなどの様々な模擬店が所せましと並びました。養護、特養の各々に利用者の方々は、会話をしながら、飲んだり、食べたりと、とても楽しめました。わかふじ寮からも、毎年恒例の工夫をこらした仮装をした利用者が踊りに参加され、とてもにぎわいを見せていました。又、デイサービスを利用されている方と家族を含め17名の方が参加され、普段会うことの出来ない各曜日の方々が顔を合わせ話をしたり、踊ったりと楽しまれました。新得やすらぎ荘の利用者で外に出られない方達は、提灯をつるした施設の食堂で、施設長の太鼓のリズムに合わせて踊ったり、会場から運んだ焼き鳥、おでん、そばなどを美味しく食べて、盆踊りの雰囲気を楽しめました。

これからもこの行事が、町民と利用者の架け橋になるよう続けていけることを願います。御協力をいただいた各団体の皆様、家族会の皆様本当にありがとうございました。



ふれあい盆踊り… 1

屈足わかふじ園
きずなの郷まつり… 1

特集

創設50周年②… 2

連載②

障害者の楽園づくりに生涯を
田中皎一先生の手記… 4

各施設からのたより… 5

ご寄附・ご寄贈芳名… 14

木工製品の案内… 14

編集後記… 14

屈足わかふじ園きずなの郷まつり

8月28日(土)に屈足わかふじ園きずなの郷まつりが開催されました。今回で5回目になりますが、利用者・家族・地域住民の皆様の参加のもとに、共に支え合う地域社会の実現を目指し、この行事を計画しました。

当日は鳥串・豚串・焼きそば・焼きイカ等の露店の他に、新鮮な野菜・しいたけの直売、わかふじ寮のパン・家具、射的等のゲームコーナーを設け、まつりを盛り上げていきました。

またアトラクションとして、『クイズ屈足わかふじ園にきました』と『仮装ラムネ早飲み競争』を行いました。『クイズ…』は事前に利用者・職員に、好きな色や中華といえといったアンケートをとったものをクイズ形式にし、一般参加者に答えてもらい、『仮装…』はオリンピックにちなんで、野球や柔道等の衣装に着替えてからラムネを飲み、利用者にはどの一般参加者が早く飲み終わるのかを当ててもらいました。いろいろな答えが出たり、参加された方々が一生懸命着替えを行っている姿を見て、利用者だけでなく一般の方々にも楽しんでいただけたかと思います。さらにフィナーレでは、音更町の「翔華'99」によるよさこいを華麗に披露していただきました。

当日は快晴のもと、出店・ボランティアの方々・地域住民の方々を含め約500名の参加があり、大成功に終わりました。これもひとえに、この行事の趣旨に御賛同していただいた皆様方のお陰です。ありがとうございました。来年のきずなの郷まつりも御協力下さいますようよろしくお願いいたします。



当時を振り返って～昭和40年代

(指導課長 高畑 美優治)



私がわかふじ寮に入所したのは、昭和46年の15歳の春でした。

当時のろう学校では手話を学ぶことはなく、口話を読み取り、先生の頬に手を当てて発音を覚えることが大半でしたので、わかふじ寮に入所した頃は仲間とのコミュニケーションに不安を感じながらも、先輩の使う手話を見て教えてもらい覚えたものです。

又、木工の世界を知らない私にとって、これからの作業訓練で本当に技術を身につけていくことが出来るのか不安ばかりで将来の事を考える余裕などありませんでした。

訓練生だった頃、カンナのかけ方やノミの使い方など基本的な技術を覚えるまで当時の技術指導にあたっていた職員からは怒られながらの厳しい指導を受ける毎日でしたが、そんな厳しい指導があったからこそ今の私がいると思うと感謝の気持ちでいっぱいになります。又、展示会での販売は、多くの家具をトラックに積み込むのが大変でしたが、いろんな所に出かけられるのが嬉しく、出先でお祭りを見られる事が何よりも楽しみでした。

当時、70名程の利用者が寮で生活していましたが、冬期間は燃料費節約のため就寝前には暖房が止められ、とても寒い部屋で生活をしていました。洗濯も当時は手洗をしていたのですが、ボイラーが今のように立派なものではないため、はじめの間はお湯が出ていても、洗濯の順番が後になると冷たい水で手洗をすることが多かったように記憶しています。

食事は今と比べると決しておかずは多くはなかったのですが、田中先生の奥さんが中心となって寮の女子が作る食事はどれも美味しく、特にカレーライスの味は今でも忘れることが出来ません。又、年に1度、レクリエーションで出かけた時のジンギスカンは一番の楽しみでした。

休日は、仲間と砂利道を自転車まで帯広市まで行ったり、町内や山など2～3人で出かけたりなどで過ごすことが多く、町に出ると健聴者の一部は好意を示してくれたのですが、私達が使う手話を見て多くの人は「ろうあ者か」というような目で見られる事もあった時代でした。

ろう学校の頃からスキーはしていましたが、入所後、先輩がスキーをしていたこともあり、私も本格的にスキーを始めるようになりました。その入所した年の全道の冬のスポーツ大会(スキー)で優勝したことが大変嬉しく強く印象に残っています。又、スキー大会が近づく田中先生が「力をつけなさい」と自室に呼んでくれて、こっそりと美味しいご馳走を食べさせてくれました。初めての全国大会は田中先生に背中を押されて出場できる事となり、当時の職員であった菊地先生の引率で参加し、入賞する事が出来ました。そして更に世界大会出場も決まり、道外に出るのも初めてでしたが、アメリカへ行く事になった時はドキドキして興奮している自分がそこにいました。

今までスキー板やウェアは、先輩から譲り受けたものばかりを使用していましたが、世界大会に行くことが決まり、田中先生が町内をまわりカンパを集めて、新しいスキー板とウェアを買ってくれました。頂いた時は、本当に嬉しく、私達の事を第一に考えてくれた田中先生の行為にただ、ただ、感謝するばかりです。その後も何度も世界大会に参加させてもらい、今は亡き田中先生と出会い、人柄に触れ、このわかふじ寮で育ったことは、私にとっての「宝」とも言えます。

当時をこうして振り返ると色んな事が思い出されますが、これからも私を育ててくれた「わかふじ寮」と共に歩んでいきたいと思っています。

— 年 表(昭和40年代) —

■昭和41年3月

北海道共同募金会及び日本自転車振興会(競輪)の補助を受け、鉄骨ブロック造平屋建98.4㎡の木造乾燥室を新設し、プレス室ボイラー室を併設する。

■昭和42年3月

北海道共同募金会及び新得町費補助によって、隣接敷地2,227.5㎡を買収する。

■昭和43年3月

日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源として、鉄骨ブロック造2階建330㎡の木工指導室を増築する。

■昭和44年3月

道費補助金を主財源として、収容棟耐寒ブロック造2階建462㎡を増築し、定員70名に増員する。

■昭和45年9月

北海道共同募金会の配分金並びに新得町補助金を主財源として、管理棟浴室30.84㎡を増築する。

■昭和46年4月

理事長藤川マキエ氏が社会事業功労者として、勲五等瑞宝章を受章する。

■昭和47年4月

隣接敷地2,187㎡を買収する。

■昭和47年10月

施設創立20周年記念式挙行する。

■昭和49年3月

施設製作の家具の2点が道産優良推奨品として指定を受ける。

■昭和49年12月

日本自転車振興会(競輪)補助金を主財源として、鉄骨2階建一部平屋木工指導室476㎡を増築し、暖房設備、リフト設備を併設し機械設備の充実を図る。
道共同募金会の配分金を主財源として、ボイラー室及び炊事室の改装工事をなし、炊事設備の改善を図る。



わかふじ寮での思い出～昭和40年代

(技術指導員 梅坪 正裕)

私は、昭和42年3月旭川ろう学校中等部を卒業後直ぐに、わかふじ寮に入所しました。入所前、わかふじ寮の指導員は健聴者の方ばかりと思っていましたが、入所してみるとほとんどが同じ障害を持った方が指導員としていたことが分かり、少し安心したものでした。

入所した頃から1日でも早く木工技術を習得して、将来は一般の会社に就職したいという夢を持ってわかふじ寮での作業訓練に励む毎日でした。

一年目、担当であった加藤指導員からは失敗しては怒られてばかりの毎日でしたが、私が理解できるよう何度も何度も根気よく指導にあたってくれました。

その加藤指導員のもと、はじめて郵便受けを製作し、今では簡単に製作できる程度のものでしたが、当時の私にするとタンスや食器棚を作るのと同じくらい難しく、失敗だらけの決して良い出来上がりではありませんでした。それでも何とかあきらめずに最後まで1人で製作できたことは、当時の私にとっては偉業を成し遂げたのと同じくらいのことでした。それも今では懐かしい思い出のひとつです。

わかふじ寮の生活で困ったことは、冬期間の洗濯でした。洗濯物を居室に干していましたが、暖房が入っている時間が短く、衣類がなかなか乾かずに次の朝には凍ってしまい、工場のボイラー室によく洗濯物を持ち込んで配管の上に干して乾かしていました。

寮では、トイレ等の掃除当番がありましたが、朝、私が掃除をしていると田中先生がこれ「ご苦労様です」と必ず声を掛けてもらい、「今日も一日頑張ろう」という気持ちになり、その一言が寮生活においてどれだけ励みになったかわかりません。

休日は、仲間といつも野球の練習をしては、町民の朝野球に参加していました。その頃に試合を行なった旧中学校のグラウンドは、現在の小学校が建っているあたりで今は面影を見ることは出来ませんが、いつも試合に出ては負けてばかりで悔しい思いをしていました。それでも、町民の方と試合を通じて私達障害者への理解と絆を深められたことで、悔しくても楽しかった忘れることの出来ない思い出です。

昭和43年には鉄骨ブロック造2階建の工場が増築され、広い場所で作業できることが大変嬉しかった事を覚えています。

その頃、私の一番の思い出は、寮内で行なわれるクラス別の木工製品コンテストで優勝した事です。入所してから1、2年目のクラスで出品した製品では、優勝を頂きました。しかし、何か物足りなさや満足感がなく、3年目には入所して4年目の先輩たちのクラスに参加させてもらったのですが、現実はそんなに甘いものではなく、落選という結果に終わってしまいました。その後、4、5年目を2年続けて優勝出来た時は、本当に嬉しく自信にもつながりました。

昭和42～47年までの5年間で木工技術を学んだ後、私は札幌にある建具の会社に就職することができ、わかふじ寮での生活はいろんな意味で私を大きく成長させてくれたと思います。又、田中先生と藤川先生には、数え切れないほどお世話になり、私達、聴覚障害者が自立し得たのも御二人をなくしては決して語ることはできません。

私は現在、このわかふじ寮で技術指導員として勤務していますが、今は亡き御二人の障害者に対する思いを忘れることなく、これからも頑張っていきたいと思っています。



昭和40年代当時の木工技能競技会の様子

(耳をなでてくれた母の感触)

そんな時、振り向くと母がたっていて「出来る事なら、お前に私の耳をやりたいなあ。」と心配そうに耳を撫でて下さった感触が今も忘れられない。一家団らんのひとつときも会話が分からないので、私には何の楽しみもなくなった。

床に就いても「兄や姉たちは皆健康で、希望ある毎日を過ごしているのに、私の耳がどうして聞こえないのか。いつになったら聞こえるようになるのか、いや私は一生の間、耳が聞こえない身で過ごさなければならぬのだろうか。」と悲しく思い続け、隣で休んでいる母に気づかれまいと、声を殺して枕を濡らしたこともあった。

(思いを固めてろうあ学校に)

その後は、青年学校に進んだが、「何とかして他の人との対話が出来ようになりたい。」これが私の考えていた願いであった。私の習った小学校の国語教科書の中に、ろうあの子供が、父母が面会に来られた時「お父さん」と呼び、また、父母の問いに答える感動的な対話が載っていた。私はこれにヒントを得て、私もろうあ学校に入り、話し言葉を口で見て分かるようになりたいと考え、札幌のろうあ学校を訪ねたのである。

学校の玄関に入るや否や、青い顔して私の方を物珍しげにキョロキョロ見つめる7.8歳のろう児が目についた。一瞬、何か見てはならないものを見た時のような嫌気がさした。

ここで近藤校長先生にお会いし「読話(相手の口を見て話を理解すること)を習得することは、そんなに短時間に出来るものではない。ろう児に接しながらやってみてはどうか。また、職員として採用することも考えよう。」とのお言葉を頂いたが、玄関で見たろう児の顔が脳裏から離れず、暗い気持ちで帰宅した。

思えば同じ人間としてこの世に生まれながら、あの子たちは、私たちよりもっと聞こえず、生まれてからずっと小鳥のさえずりも、やさしい父母の言葉も聞いていないのだと思うと、自分もまた、あのろう児たちと同じろうあ者になったことを思い詰めたといえ、さげすんでみている自分が何か恥ずかしく感じた。

何とかしてこの人たちの力になってあげようと意を決したのは、それからまもなくのことであった。

(戦争を経てろう職員となる)

昭和18年4月13日この日は私が札幌ろうあ学校の寄宿舎に入学し、教員助手とはいえ、児童と共に寝起きし、朝夕の世話から始まり、ろう者のためにこの道への第1歩を踏み出す記念すべき日となった。

努力の甲斐あって読話も予想以上に早く上達し、6ヶ月後の9月に正式の職員として採用された。

当時しのぎを削った日米戦争も、いよいよ急な折り、私も21歳を迎え、徴兵検査を受けることになった。どうせ聞こえない身であり、今までに覚えた読話力で戦陣に立ち、一命を捧げる気持ちで検査場に臨んだが、耳の聞こえない悲しさで不合格になってしまった。検査官は「お前が国を思う心はよく分かるが、ろう者を教育する今の道に努めることがまた一層国のためになる。」と、こんこんと論され、仕方なく引き下がったが、今もあの時の言葉が思い出される。

この時、本当に自分が一人前でない人間であるということが強く感じられたのである。しかし、それだけに死んだと思って、一層この道に進もうと、日々のろう児の指導や世話に精根の限り努めたのであった。

やがて本道にも敵機が襲来し始め、その危険を避けて学校は十勝の御影に疎開、まもなく終戦となった。

昭和24年、晴れて文部大臣よりろう学校教員としての認可書の交付を受け、同じろう者の教育に没頭したが、学校を卒業しても、職業訓練施設がなかったため、就職が困難でやむなく家庭に帰らなければならなかった子の将来に胸を痛めるようになった。

(わかふじ寮の藤川元理事長にお会いしたのはこのごろである。)

何とかして卒業生の職業訓練施設をと、方方漁り探したが、道内はもちろん、日本中のどこにも、ろうあ者だけの授産施設は見つからなかった。その上、世の中が落ち着くにつれ、ろうあ者は、ろう学校の職員として不適當であるという声も聞かれるようになった。

次回広報誌 続く

これからの介護保険について (新得やすらぎ荘)

平成12年4月より施行された介護保険制度も5年目を迎え、社会保障審議会介護保険部会は、新たな介護予防サービスを創設し、総合的な介護予防体制へ転換することを柱とする報告書「介護保険制度の見直しに関する意見」をまとめています。

この報告書では、介護予防システム導入を重視し、「要支援」及び「要介護」など軽度の要介護者を対象に「新予防給付」を創設して、筋力向上トレーニングなどを受けられる様にすべきだとしています。

新予防給付については、①高齢者に対し、要介護認定と一体的に、介護予防の対象者としてふさわしいかどうかを適切にスクリーニングする。②心身機能を含む生活機能等を把握する為のアセスメントを行い、個別の「予防給付プラン」を作成する③筋力向上トレーニングの他、転倒骨折予防、低栄養予防、口腔ケア、痴呆状況の悪化や閉じこもりの予防、フットケアなどのサービスを行うとしています。

提供主体には、多様なサービス内容を用意するため、民間事業者や、地域のボランティアな組織等の社会資源の活用も想定されるとしており、又、介護報酬も、月単位やプログラム単位の包括払いとするなど柔軟な仕組みを検討する必要があるとしました。さらに、地域における総合的なケアマネジメントを行う中核機関として、市町村が主体となり「地域包括支援センター(仮称)」を創設し、地域の高齢者の実態把握、虐待への対応など権利擁護や介護以外の生活支援を含む包括的・継続的なマネジメントを行うべきであるとしています。又夜間の随時訪問ケアなど、地域に密着したサービスの重要性を指摘し、要介護高齢者と同居する家族を支援する為、訪問介護ステーションなどで高齢者を一定時間預かる新たなサービスの検討なども必要であるとしています。これらの見直しの中で、在宅支援センターとの関係の調整、障害者施策における、支援費制度との一部統合についての検討、社会保険者範囲の見直し等と併せて継続して検討を行うこととし、多くの課題を残しています。

夏に厚生労働省は、施設サービスと在宅サービスの一本化の為、①介護保険3施設のホテルコスト(家賃、光熱水量、食事提供者)等を利用者負担とする、②社会福祉法人への施設整備補助の廃止、③サービス内容等に係わる情報の開示を具体的施策としており、平成17年度通常国会への見直し法案提出に向け、制度設計を始めています。新制度によるサービスは、平成18年4月から実施する予定されていますが、利用者にとってより質の高いサービスであることはもちろんの事、利用者を支える家族への更なる支援の充実の為に、慎重な検討が望まれます。

わかふじ寮木工作業棟・軽作業棟起工式 (わかふじ寮)

「わかふじ寮木工作業棟」・「わかふじ寮軽作業棟」の起工式が7月22日、現在の木工作業棟の東側建設予定地で行なわれました。

式には法人関係者、わかふじ寮利用者代表と工事関係者や斎藤敏雄町長、湯浅亮町議会議長ら来賓を含め約30名が出席し、佐々木忠利理事長が鍬入れを行なった後、玉串を捧げ、工事の安全祈願をしました。

木工作業棟の建物は、鉄骨造2階建1棟述べ約921㎡、総工費は約1億2千万円で、日本自転車振興会(競輪)の補助金を主財源に新得町の助成金、残りは自己資金で賄う予定です。

一方、軽作業棟の建物は、木工作業棟西側に建設を予定しており、木造平屋建延べ約382㎡、総工費は約2千3百万円で、お年玉付郵便葉書・郵便切手に付加される寄附金の配分金を主財源に、残りを自己資金で賄う予定です。

両作業棟ともに、12月20日完成の予定です。



新得中学校総合学習

(わかふじ寮)

新得中学校では、学校生活3年間を通して生徒の「自立」「共生」を目指した総合学習(DO学習)が行なわれています。

1学年はこの総合学習で「手話学習とわかふじ寮の利用者との交流」を課題とし、交流会前には自己紹介と映画「どんぐりの家」の主題歌「心と心で」の手話表現を覚え、6月22日45名の中学生が、わかふじ寮を訪れました。

交流会では、はじめに中学生が手話の歌を披露し、利用者からは大きな拍手が会場に響き渡っていました。

聴覚障害者にとって普段身近に感じることの出来ない音楽ですが、精一杯に表現した手話の歌は、利用者の心の中で形を変えて歌となり、聞こえていたことでしょう。

又、手話による利用者との伝言ゲームでは、それぞれに言葉の大切さと気持ちを伝える事の難しさを感じたのではないのでしょうか。

この学習を通して聴覚障害者に対する理解がより一層深まり、地域でも触れ合う場が広がって欲しいと思います。



いこいの村 利用者との交流会

(わかふじ寮)

7月12日、京都府の聴覚障害者授産施設「いこいの村」栗の木寮から利用者・職員41名の方が、わかふじ寮を訪れました。

今回の交流会は、研修旅行と合わせて行なわれ、参加者の中には、以前、当施設へ2ヶ月間実習に来ていました栗の木寮の村上徳昭さんが自治会会長として参加し、司会進行を勤める中での交流会となりました。

はじめに、いこいの村の施設を紹介したビデオを見た後、作業内容について各担当の利用者代表から説明を受け、日頃行なっている作業の様子などを詳しく知ることができました。

質問コーナーでは、お互いの利用者からいろんな意見・質問が活発に交わされ、両施設を知る良い機会となり、交流会最後には、各施設で製作している製品を交換し、楽しいひと時を過ごすことができました。

パン工房わかふじリニューアルオープン

(わかふじ寮)

「パン工房わかふじ」が6月12日にリニューアルオープンしました。

これに伴い今まで皆様にご利用頂いていた本通店を閉店とし、新たな気持ちで再出発させて頂く運びとなりました。

リニューアルにあたっては、内外装とも自施設の利用者・職員で全面改装を行ない、木目を基調とした温かみのあるカントリー風の店内になりました。又、これを機に焼き立てのパンをより多くの方にご提供できるよう2度焼きの実施(焼きあがり時間11:00・15:00)と月に2~3種類の新商品を店頭に並べるよう行なっています。

これからも「パン工房わかふじ」は、皆様へ選ばれ、愛される店作りを目指していききたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



WRCラリージャパン2004in新得

(わかふじ寮)

9月3~5日の3日間の日程で、2004年FIA世界ラリー選手権(WRC)第11戦「ラリージャパン」が十勝管内各地で開催され、最終日の5日に行なわれた新得会場にも道内外から多くのファンが詰め掛けました。

今回、日本初開催となる世界ラリー選手権(WRC)を成功させようと町内の各団体と共にわかふじ寮でもラリーカーを模った木工製品や地元特産品のそばの販売などを応援広場となる屈足総合会館前と岩松の林道を駆け巡るパンケギャラリーステージ内で行ないました。

この内、3,000人以上の観衆が詰め掛けたパンケギャラリーステージでは、凄まじい音を響かせて走行するラリーカーを多くのファンが声援を送る中での販売となり、わかふじ寮で製作したラリージャパンのロゴ入りグッズは好調な売行きを伸ばし、「記念に」と持ち帰る多くのファンの声を聞くことができました。又、食品関係の売店も多くの方で賑わい、地元特産品のそばや北海道の特産品であるトウキビも好調な売行きで、観戦者はラリーと共に北海道を満喫していました。

又、今回のWRCには聴覚障害を持つ女性ドライバーの福沢曜子さん(千葉県在住)が参戦。わかふじ寮では横断幕を製作し、応援広場前の沿道で声援を送りました。

翌日には、福沢選手が実際に競技で使用したラリーカーでわかふじ寮を訪れ、ラリーカーを前に利用者と交流、記念撮影をし、わかふじ寮から福沢選手に記念にと横断幕と木工製品を手渡しました。同じ聴覚障害を持つ福沢選手の活躍は、わかふじ寮の利用者にとって大きな励みとなり、勇気を与えたことと思います。

十勝での世界ラリー選手権(WRC)の開催は、多くの方にわかふじ寮を知って頂く良い機会となり、人と人を結びつける「ラリージャパン」が、またこの地で開催され、新たなドラマの1ページを開いてくれる事を信じて止みません。



福沢選手のゴールの様子



大会の翌日、わかふじ寮を訪れた福沢選手をかこんで



応援広場前で福沢選手に声援をおくりました



会場でのわかふじ寮のグッズ販売の様子

※ WRCとは、国際自動車連盟(FIA)が公認する世界ラリー選手権(ワールドラリーチャンピオンシップ)の略。自動車競技の頂点となる世界選手権は、このWRCとF1しかありません。

全道ろうあ老人交流会

(わかふじ寮)

7月3～4日に倶知安町で全道ろうあ老人交流会が行なわれました。

3日の夜は夕食を兼ねての交流会があり、参加した利用者・職員21名は、久しぶりに会う友人・知人とのゲームや思い出話に花を咲かせていました。

翌4日は、晴天に恵まれた中でのパークゴルフ大会となり、皆それぞれに友人・知人と一緒にプレーを楽しんだ中、水本昇さんが見事優勝を果たしました。

この2日間で友人・知人との新たな思い出の1ページを刻んで、皆満足した表情で帰寮しました。



第37回全道ろうあ者夏季体育大会

(わかふじ寮・やすらぎ荘)

6月25～27日の3日に亘り、第37回全道ろうあ者夏季体育大会が石狩市で開催され、わかふじ寮からは、ゲートボール競技に2チーム・パークゴルフ競技に21名の利用者が参加しました。



26日のゲートボールは、あいにくの天気となり、肌寒い中での競技となりましたが、27日のパークゴルフは一転、昨日の天気が嘘のように晴れ渡り、真夏日ともいえる中での大会となりました。

パークゴルフ競技では、惜しくも昨年のような好成績は収める事が出来ませんでした。「来年は良い成績が残せるよう頑張りたい」と既に来年に向けての抱負を語ってくれました。

ゲートボールに参加したやすらぎ荘は残念ながら予選で敗退してしまいましたが、わかふじ寮の成績は、次のとおりです。

ゲートボール競技

準優勝 わかふじ寮A【山内・横尾(義)・豊田(嘉)・井上・佐治】

パークゴルフ競技

男子の部	4位	平田 常男	女子の部	4位	平田くに子
	4位	水本 昇		6位	川口 武子
	8位	山内 幸男		9位	笠井ヒロ子

第42回北海道障害者スポーツ大会

(わかふじ寮)

去る7月4日、第42回北海道障害者スポーツ大会が留萌市で開催され、わかふじ寮からは陸上競技に利用者10名が参加しました。

大会当日は前日の開会式に続いて晴天に恵まれた中で競技が行なわれ、日頃の練習の成果が実り、多くの方が上位入賞となりました。

尚、今年度の全国障害者スポーツ大会(埼玉県・11月13～15日)に大山和広さんと犬飼正さんが昨年の成績をもとに北海道代表選手に選考され、参加します。

成績は、次のとおりです。

男子100m	1位	亀田 尚志	15秒7
	3位	金子 弘	22秒9
男子200m	2位	井上 勝	39秒1
男子ハンドボール投げ	1組	1位	斎藤 拓美 32m9
	2位	辻田 貴久	17m52
	2組	1位	犬飼 正 21m76
女子ハンドボール投げ	2組	1位	木村 恵 13m14
	3組	1位	本間久美子 12m
男子やり投げ	2組	1位	須田 有示 16m82
男子砲丸投げ	1組	1位	大山 和広 7m34



QCサークル勉強会 インストラクション

(わかふじ寮)

わかふじ寮では、平成11年度からQC(品質管理)サークル活動を行なっています。

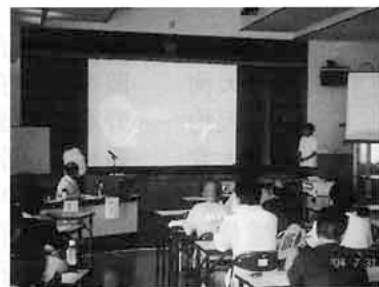
導入のきっかけとして「利用者に対するより良いサービス提供」・「授産におけるコスト・製品の均一化」等の業務改善を目的として始まりました。

今年で6年目を迎えたQCサークル活動ですが、これまでに取り組んできた活動を業務改善として十分に反映できないことが多かったため、講師を招いて7月30～31日の2日間に亘り、地域交流ホームで勉強会を行ないました。

2日間の講義には、やすらぎ荘・屈足わかふじ園の職員も参加し、QCサークル活動の基本的な考え方と進め方とサークルにおけるリーダーの役割等を学び、昨年度のわかふじ寮の活動事例には取り組み方など貴重なアドバイスを頂きました。

当日は、気温34～5度と猛暑の中での勉強会となりましたが、プロジェクターを使った見てわかり易い講義内容は、大変勉強になりました。

この勉強会を無駄にすることなく、業務改善に向けた今後のQCサークル活動に活かしていきたいと思っています。



合同運動会 (わかふじ寮・やすらぎ荘・新得やすらぎ荘)

9月11日(土)にわかふじ寮・やすらぎ荘・新得やすらぎ荘・たんぽぽ園で、合同運動会がいこいの広場にて開催されました。過去2年間は、雨の為、町民体育館での競技となり、今年も前日にスコールの様な大雨が降り心配していましたが、当日は運動会の日としては、最高な晴天になりました。やすらぎ荘・新得やすらぎ荘の利用者の皆さんが毎年楽しみにされている「パン食い競争」では、参加された皆さんは、パンを懸命に掴み取りゴールへと向かって、走りました。わかふじ寮の利用者の皆さんは5競技行い、特に「借り物競走」では、理事長、施設長や職員の顔写真も入っていて、利用者の方と一緒に走ったり楽しまれている様子でした。紅白両チームの大声援もあり、運動会は大接戦で、プログラム最後のリレーで勝った白組が優勝となりました。両チーム共に勝ち負け関係なく最後まで懸命に頑張ったので、閉会時には、笑顔が満ちあふれていました。今年も怪我もなく無事運動会を終えることが出来、楽しんで頂けたことと思います。



釣り大会

(やすらぎ荘)

7月16日に恒例の釣り大会が行われました。天気にも恵まれ、多くの利用者が参加されました。あまりの暑さの為、魚が池の底に逃げてしまい釣れないのではないかと危惧していましたが、今年は1人一匹以上釣り上げる事が出来、全部で130匹の大漁となりました。



昼食にはジギスカンと釣れた魚をお腹一杯食べ、とても充実した楽しい一日を過ごされました。

大会の成績は次のとおりです。

大天狗	藤川 夕子
中天狗	岡本キヨ子
小天狗	野本 春雄
特大賞	霜村 幸
大漁賞	濱 キクエ
重量賞	谷内えみ子
小魚賞	中鉢 英子

新職員紹介

(わかふじ寮)



安田 昇
(やすだ のぼる)

昭和29年7月24日生まれ
帯広市出身

7月1日よりわかふじ寮の技術指導員として勤務しています。

以前、わかふじ寮で4年間木工技術を学び、音更町の家具製造工場で働いていました。わかふじ会やろうあ協会等の活動で交流が続いていたこともあり、利用者・職員とも直ぐに打ち解け、作業指導にあたっています。今後ともよろしくお願いします。

山菜取り

(やすらぎ荘)

6月4日に毎年恒例の山菜取りへ出掛けました。参加者は10名でしたが、フキ、ウドが沢山採れました。この日は、とても暑く、「疲れてしまうのでは」と心配していましたが、みなさん笑顔で抱えきれないほどの山菜を採られ、職員がビックリするほどでした。

施設に戻り昼食後、採れたての山菜を茹でて、皮むきをされた為、茹でるのが追いつかないほどでした。暑い中皮むきを頑張って頂いた利用者皆さんにアイスクリームを配り山菜採りの暑い一日は終了となりました。

小公園

(やすらぎ荘)

開所当時より、素敵な花を咲かせてきたやすらぎ荘南側の花壇ですが、利用者の足も次第に遠のき、花よりも雑草が目立つようになりました。そこで今までの花壇を大改造し、利用者が散策を楽しめるような小公園を造成する事となりました。役場のOBの方々に周りの木を切って頂いた後、本格的な工事となりましたが素人集団の職員の上に異常とも言える今夏の猛暑での作業は大変な困難を極めました。しかしながら「ふれあい盆踊りには利用者に楽しんで頂きたい」と言う強い思いの下、何とか完成致しました。盆踊り当日には、利用者のみならず町民の方々にも利用して頂き、職員一同大変喜んでいきます。今後も利用者の皆様に長く愛され続ける公園になって欲しいと思います。



新ゲートボール場完成

(やすらぎ荘)

6月8日新しいゲートボール場の完成式が行われました。昨年、日帰りサービスセンターやすらぎ荘が増築するにあたりゲートボール場を移動する事となり、雪が溶け暖かくなってから、整備が始まり5月末に完成しました。利用者の方々は、「まだか、まだか」と待ちわびており、「今日からゲートボールが出来ます」と報告した時には、大変喜んでおりました。ゲームを始める前に利用者代表の3名の方で始球式を行い、新しいゲートボール場完成式に華を添えて頂きました。初めは球足も速く、慣れるまでは大変そうでしたが、今では皆さん楽しく行っております。



施設内ゲートボール大会

(やすらぎ荘)

6月17日、すがすがしい青空の下で、施設内GB大会が行われました。

5チーム(27名参加)がリングトーナメント方式で対決しました。午前中は調子が良かったのに、午後からは疲労が出て、うまく行かなかったり、逆に、午前中調子が悪く、成績が出なかったのに、午後にはぐんぐん調子が良くなっている方もいました。特に、主将は、張り切り過ぎて、コートに入って指示したまま、コートを出ることも忘れ、主審に注意される事が度々ありました。ゲートボールをしない方も、熱い日射しに負けず応援をして頂き、大会を盛り上げました。

大会後は、冷たく甘いアイスクリームを食べて疲れた体を癒しました。それぞれのチームもいつもよりチームワークがまとまり、とてもいい勝負だったと思います。



開所記念日帰り旅行

(やすらぎ荘)

6月30日に利用者の皆さんが楽しみにされていた日帰り旅行に行きました。今回の旅行は然別湖で、ホテルに到着後、早々と遊覧船に向かって行く姿が見られました。船の中では、湖の中心にある小さな神社に、それぞれの願いを込め手を合わせたり、湖を一望し目を輝かせていたり旅行気分を満喫されていました。その後は、ホテルの大広間で、地元ならではの料理に舌鼓を打ち、「美味しい」と喜ばれていました。湖を見ながら温泉につかり身体を癒してから最後は、ゲームを行い、全員が景品を手にして楽しめました。帰りは大雨でしたが、満面の笑みを浮かべながらの帰荘となり開所記念日帰り旅行は無事終了しました。



外食日

(新得やすらぎ荘)

今年の外食は、7月14日芽室町の羽衣亭、7月21、28日に屈足温泉レイクインと3回に分けて行きました。羽衣亭は前年度好評だった回転寿司という事もあり、多数の利用者が参加されました。中には、1人で10皿以上も食べられる方や、珍しいデザートに喜ばれる方等、とても楽しまれていました。屈足温泉レイクインでは、お膳に、寿司、そば、天ぷら等、数多くの旬の料理が並んでおり、どれも美味しく利用者皆さんの顔にも自然に笑顔が出ている様子を見て大変うれしく思いました。これからも利用者の皆さんが楽しい時間を過ごしていただけるように取り組んでいきたいと思ひます。



三味線披露

(新得やすらぎ荘)

6月30日に三味線を披露して頂けるとの事で加藤流三弦会の4名の方々が帯広より来荘されました。当日は、三味線だけではなく、花笠音頭や、炭坑節、十勝小唄など、皆さんが馴染みの楽しい民謡を沢山歌って頂きました。手拍子を取ったり、中には、泣きながら聞いている方もいてとても喜ばれていました。ディサービスの利用者の皆さんも一緒に観賞して楽しんで頂きました。今回の三味線披露は利用者の方々皆さんの良い気分転換になり、大変感動されている様子が印象的なひとときでした。



特養のヒーロー・ヒロイン

(新得やすらぎ荘)



特養のヒロインを紹介させていただきます。今回のヒロインは水戸部スヨさんです。いつもカチューシャを身につけておられるオシャレな方で、それがとても似合っています。話かけるといつも笑顔でニコニコとお話をして頂けるととても優しい方です。今は、旦那さんの惣一さんと一緒にの部屋で、夫婦円満に楽しく過ごされています。これからも毎日を元気に楽しく生活し、長生きして頂く事を職員一同心から願っています。

ゲーム大会

(新得やすらぎ荘)

6月28日デイホールにてゲーム大会が行われ、紅白に分かれ、1つのゲームをクリアすると次のゲームへ進める形式で3種類のゲームを行いました。特に楽しまれていたのは、カレーライスの材料6種類を絵カードにし神経衰弱の要領でカードを集めるという内容のゲームでした。早くカードを集め次へ進める方や、なかなかカードがそろわず進めない方もいて、とても盛り上がりましたが、雰囲気作りがややもの足りなく、音楽をかけたりもう少し工夫すれば良かったと反省も残りました。しかしながら利用者の方からは、「珍しい内容で楽しかった」との声を頂き、職員一同ホッと一安心しました。



私達が、お手伝いさせていただきます

こんな時には、連絡を！介護保険証をお持ちの方であれば一割負担でお手伝い
制度上の手続き等で、不明な点・わからない箇所があれば相談してください。

手や足が痛くて、
買い物が大変だ。



お風呂に入る時、
不安がある。



訪問介護事業所 新得やすらぎ荘

(相談先電話番号 4-5196 担当 門馬)
私たちが、お手伝いさせていただきます。



外出したいけど、
介護を必要と
する人がいる。



食事の準備が困る。



役場OBボランティア来荘

(やすらぎ荘)

6月25日に新得町役場OBの方々43名の皆さんがボランティアで来荘されました。女性の方々には、特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘で使用する清拭布を作成して頂きました。男性の方々には、施設の裏側にあるブルーベリー畑の整備と小公園の周りの植木などを整えて頂きました。8月になりブルーベリーが実を結び出すと、収穫もスムーズになり利用者の方々にも実が採りやすいと好評でした。OBの皆様大変ありがとうございました。



花見ドライブ

(日帰りサービスセンター
やすらぎ荘)

初夏の風が吹き始めた6月1日から6月7日までドライブ週間として清水公園へつつじを見に行きました。期間中は天候に恵まれ、つつじはちょうど満開になっておりました。公園でつつじをバックに写真を撮る方や池の鯉を見る方、車内でゆっくりお茶を飲む方など、それぞれ過ごされました。花以外にも、清水町の綺麗な街並み、雄大にそびえたつ日高山脈などが皆さんの目を楽しませてくれたのではないのでしょうか。



ドッグショー (屈足わかふじ園)

今年も昨年に続き、ドッグショーを行っている団体『D3』が施設を訪れ、5頭の犬が様々な技を見せてくれました。当日は天気も良く、少し暑いかと心配しましたが、元気に音楽に合わせ見事な演技を披露してくれました。

まずは、飼い主との息の合ったフリスビー投げ等数々の技を見て、利用者も職員も技が成功する度に「おー！」と歓声をあげ、演技が一通り終了すると、演技してくれた犬とのふれあいの時間を持つ事が出来ました。そこでは、利用者がフリスビーを投げ犬がキャッチしたり、触ってみたり等しました。時々犬がキャッチを失敗すると、「次こそは成功してよ」と応援している利用者もいました。

様々な演技や犬とふれあうことができ、あっという間に時間が過ぎ、ドッグショーの魅力が充分に利用者に伝わったと思います。



花火大会

(屈足わかふじ園)

8月6日施設玄関前と駐車場で、花火大会が催されました。当日は早めに夕食を済ませ、玄関前に集合しましたが、早く花火を見たいという気持ちからか、予定よりも30分も早く来ている利用者もいました。

花火の前に、揚げタコやお菓子を食べ、いよいよ花火大会が始まりました。最初に落下傘花火が打ち上げられ、たくさんの落下傘に驚いたり喜んだりして、その後は様々な花火が利用者の目を楽しませてくれました。数々の打ち上げ花火の後は、それぞれ自分の好きな花火を持ち、楽しみました。

今年は天候にも恵まれ、楽しい夏の思い出を作ることが出来ました。



屈足ビアパーティー

(屈足わかふじ園)

7月24日(土)、午前中天候が悪く心配もされましたが、午後から晴れいざ“出発”!!屈足支所前に到着し、まず利用者を迎えてくれたのは生バンドの演奏でした。サクソやキーボードが奏でる音楽と共に歌ったり、踊ったりして中にはCDを購入する利用者もいました。さらに会場内では、たこ焼き・鳥串・豚串・イカ焼き等の出店が並び、多くの人達を楽しませており、生バンドの演奏を聴きながら、生ビールを飲んでいた利用者もいました。

当日参加した利用者は7名でどの利用者も心から楽しんでいる様子が見られ、終始賑やかなお祭りとなりました。

帰園してきた後も、皆さん満足な表情を浮かべ、祭りの余韻を楽しんでいました。



屈足保育所夏の夕べ参加

(屈足わかふじ園)

7月23日、施設に隣接する屈足保育所の夏の夕べに参加させていただきました。当日はいつもより早めの夕食を摂り、保育所に向かい、可愛い子ども達の盆踊りを見学したり、踊りの輪に入り一緒に踊らせていただきました。その後、ヨーヨーすくい・もぐら叩き・お楽しみ袋釣り・お化け屋敷等に参加し、楽しい時間を過ごしました。利用者はお土産にお菓子をいただき、とても嬉しそうでした。また、帰園途中で打ち上げ花火が上がり、足を止め花火に見入っている利用者も多く、祭りの余韻を楽しんでいました。

このような楽しい時間を提供してくださった屈足保育所の先生、ご父兄の方々に深く感謝いたします。



日帰り旅行(花畑牧場)

(屈足わかふじ園)

6月30日と7月7日の2日間、中札内村にある花畑牧場へと日帰り旅行に行ってきました。

花畑牧場では、放牧している羊を犬が羊舎まで追い込むというファームショーを見たり、牛の乳搾りを体験してきました。利用者の皆さんは怖がらず、牛に近づき乳搾りを楽み、その乳搾りした牛乳でバター作りも体験してきました。この他にも犬のフリスビーを見たり、様々な動物と触れ合うことができ、とても楽しんでいました。昼食は花畑牧場特性のカレーを食べ、美味しくいただきました。

普段動物を見たり、触れたりする機会がありませんため、皆さん満足した表情で施設に帰ってきました。



園芸クラブ

(屈足わかふじ園)

園芸クラブでは、野菜の収穫・花の育成を行っており、野菜はトマト・きゅうり等の苗を利用者と一緒に植え、育てていき収穫しています。花の育成は施設で栽培した花のポットを利用者と一緒にプランターに移し変え、そのうち50個のプランターを屈足市街の道道に沿った歩道に設置をし、「花いっぱい運動」の協力も行っています。

この他にも、施設の正面玄関付近に花を植えたり、花壇の整備や各棟にオリジナルの花壇を作っており、それぞれの花壇は利用者・家族・来客の方々の目を楽しませています。

どの作業も利用者と担当職員が協力しあって行い、利用者にとっては土に触れることが、新鮮で楽しみの一つであるようです。



行事のお知らせ

法人50周年記念式

平成16年10月30日(土)

わかふじ寮文化祭

平成16年11月6日(土)

わかふじ寮クリスマス会

平成16年12月18日(土)

やすらぎ荘クリスマス会

平成16年12月22日(水) 予定

屈足わかふじ園クリスマス会

平成16年12月24日(金)

プロ野球観戦(北海道日本ハムファイターズ戦)

(屈足わかふじ園)

8月7、8日に一泊旅行(プロ野球観戦)を兼ねて、利用者5人・職員5人で札幌に行ってきました。初日はJ Rタワー展望台で札幌の街並を堪能しました。

二日目、今回のメインイベントである野球観戦のため、札幌ドームへ行きました。試合開始までに時間があったため、グッズを買ったり、日本ハム弁当を食べながら、普段テレビでは観ることの出来ない練習風景を見て過ごしました。試合は千葉ロッテマリーンズとの一戦で、一際大きな声援を受けていたのは新庄選手でした。新庄選手に限らず、日本ハムの選手を利用者・職員共々応援しましたが、ロッテ小野投手の好投に阻まれ、5対0で完敗しました。敗れましたが、利用者の方々は野球観戦を楽しみ、ドーム内の雰囲気にも魅了され笑顔がみられました。またこの試合を含め、今季の完封負けが4試合目ということで貴重(?)な試合を見ることができたと、帰りの車中で話題になっていました。今回観戦できたのも、北海道日本ハムファイターズ球団の「スポーツコミュニティー」を目的とされた、道内の社会福祉施設等への招待ということもあり、関係者の方々の御厚意に感謝いたします。ありがとうございました。



御寄付・御寄贈ありがとうございました

平成16年6月1日～平成16年8月31日（敬称略）

【本部】 増毛町 本間富夫 【わかふじ寮】 岩見沢市 岩見沢脳神経外科 上士幌町 市川サイクル 大阪府 マスター 札幌市 石川勝治 ウェルビーイング NITフアンリティーズ 日清医療食品 北海道支店 北海道マツダ 自動車販売清水店 しみず中央薬品 いこいの村 高橋秀男 美景園 鉛口幸雄 小樽市 小樽聾学校 岩田 豊 斎藤塗料 高久教雄 植 数男 西川 進 帯広信用金庫 新得支店 共働学舎 かなざわ みうら イトー緑化	新得町 田村工業 鳥せいの新得店 標茶町 千葉 勲 大山敏宏 水沼 猛 【やすらぎ荘】 三浦商店 金沢商店 千葉玄昭 山口和子 畑山国子 小田山聖徳 旭川市 中島英治 釧路市 山本 純夫 帯広市 光生舎 赤平市 五月女 要子 神奈川県 松村トシ子 千葉県 印牧久俊 深川市 【新得やすらぎ荘】 矢萩節子 片桐浅夫 中村清秀 諸橋せい子 居酒屋 風船 三浦商店 日下和子 中村清吉 佐藤有安	新得町 井上 昭 井上夏子 齊藤美代子 平 吉子 村田和子 仲鉢重忠 大和よし 岡田美和子 村沢七美子 須田吉雄 本間富夫 【日帰リセンターやすらぎ荘】 消費者協会 上田八重子 佐藤弘恵 【屈足わかふじ園】 小田天光堂 神谷和子 サンブラザ 松田商店 高砂屋 小笹ヒロ子 小林扶美子 陽気堂 屈足保育園 小川コユキ 新得町役場婦人の会 五十嵐シスカ 岡田よし子 小坂民子	帯広市 荒井洋子 都田一志 尾田由美子 田中一男 馬場弘子 加藤敏幸 札幌福祉医療器 帯広ヤクルト販売(株) 森 正明 音更町 民生委員 音更町 禮子 音更町 陽子 音更町 三夫 清水町 中島 博 本別町 嶋崎 真知子 陸別町 三好 貞子 足寄町 高橋 敏子 上士幌町 高谷 富子 美瑛市 嶋原 ヤイ 光生舎 伊達市 岡田 光 赤平市 北橋久光 函館市 前澤安則 札幌市 日清(株) 大滝村 北湯沢リハビリセンター 福岡県 千歳療養園
--	---	---	--

社会福祉法人厚生協会では、法人の情報をホームページで公開しています。ご意見やご希望についても電話・Eメールで受け付けていますのでご利用ください。

厚生協会ホームページ

<http://www.wakafuji.or.jp>

厚生協会E-mailアドレス

wakafuji@netbeet.ne.jp (わかふじ寮)
wakafuji@rose.ocn.ne.jp (屈足わかふじ園)

閲 覧

厚生協会の事業報告書・財産目録・貸借対照表及び収支計算書等が閲覧できます。

閲 覧 場 所

厚生協会 法人事務局
新得町西3条北1丁目わかふじ寮内

編集後記

暑い夏も終わり、日々肌寒くなってくるこの頃、みなさんは、風邪などひいていないでしょうか。今回の編集に携わり、自分の文章力のなさを痛感させられました。他の職員の協力で無事発行する事が出来嬉しく思っております。決して上手な文章ではありませんが、多くの人達に喜んで頂きたいと思います。

編集担当一同

わかふじ寮 木工製品のご案内

前号（第13号）で紹介しました「オリジナル木工製品」について「何処で購入できるのか」との問い合わせが寄せられていましたので、ご案内します。

「オリジナル木工製品」は、パン工房わかふじにて展示販売を行っており、焼きたてのパンと一緒に購入することが出来ます。又、ご希望サイズのオーダー家具も製作していますので、お気軽にご相談ください。

尚、詳しい問合せ先と「オリジナル木工製品」の販売先については、下記のとおりとなっていますので、よろしくお願い致します。

「パン工房わかふじ」

住 所：新得町西3条南1丁目

営業時間：平日・土曜日 11:00～19:00

定 休 日：日曜日・祝祭日

問合せ先：わかふじ寮 TEL (01566)4-5001

担 当：片桐・高橋・高松

